

成田空港活用協議会
令和2年度 事業報告
(資料編)

目 次

(1) ビジネス支援事業

- CHIBAビジコンとの連携による新規事業創出の促進・・・1
- アクティビティ（体験型）商品開発・・・・・・・・・・3
- 航空/空港関連企業との商談会・・・・・・・・・・5
- 訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト・・・・・・・・8
- 日本遺産等を活用した誘客促進・・・・・・・・・・11
- 地方創生と連動したDMO養成塾・・・・・・・・・・13
- 日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客・・・15
- ユニバーサルツーリズムの促進・・・・・・・・・・17

(2) 空港利用促進事業

- 空港利用回復事業・・・・・・・・・・19

(3) 基本的な取組

- 首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望・・・20
- 会員提案の募集・具体化・・・・・・・・・・22

(4) その他

- プレスリリース・・・・・・・・・・23

(1) ビジネス支援事業

CHIBA ビジコンとの連携による新規事業創出の促進

千葉県主催の第6回ちば起業家ビジネスプラン・コンペティション(CHIBA ビジコン 2020)への協賛・授賞を通じて、起業家に対し成田空港を活用した新規ビジネスの可能性を示し、新規事業創出の機運を醸成する。

今年度は、応募総数60件の中から、成田空港を活用したビジネスの発展性、地域経済活性化効果などの基準に照らし、高く評価されたことから、株式会社さつまいもの石田農園による「日本一の、最高級の芋を生み出す技術が新たな市場を作る」を授賞プランに選定した。



CHIBA ビジコン 2020 サポーター賞 受賞者発表



受賞者

「日本一の、最高級の芋。」を生み出す技術が新たな市場を作る

株式会社さつまいもの石田農園

石田 湧大氏

員名	選考理由
創業手帳 員 (創業手帳株式会社)	地元千葉のさつまいもを、独自の熟成技術を用いブランディングを進めているという点が、非常に魅力に感じました。弊社のWEB記事でブランディング、マーケティングのお手伝いが出来れば幸いです。
ちばざん 員 (株式会社千葉銀行)	多くの農家が抱えるマーケティングに関する課題解決につながるテーマであり、自社独自の熟成技術で「さつまいも」の付加価値向上に成功し、ブランディング・PR 技術に優れている。農業種と連携プロジェクトを企画する積極性及び、道の駅や周辺さつまいも農家との協業による地域活性化に貢献する取り組みを評価した。
成田空港活用協議会 員 (成田空港活用協議会)	成田空港周辺にはサツマイモの県内有数の産地であり、空港周辺地域の広域的な特産品開発・特色（魅力）づけに期待できる。また、空港での商品販売と空港からの食の体験観光につなげるや、食品加工・飲食・観光事業に対する新商品開発や付加価値向上等の波及効果も期待できる。

サポーター賞発表の様子
感染予防対策のため、会場開催は中止となった。



受賞者（石田湧大氏）によるプレゼンの様子
プランの詳細は YouTube にて公開中



受賞者ホームページ

(<https://satsumaimo-ishidanouen.com/>)

「甘熟べにはるか」や「グミいも」など6種類の自社ブランド品を展開。

[展 開]

● プラン概要

- ・ 受賞者 : (株) さつまいもの石田農園 (石田 湧大氏)
- ・ プラン名 : 「日本一の、最高級の芋を生み出す技術が新たな市場を作る」
- ・ 内 容 : 独自の熟成技術で甘くした高糖度のさつまいもを流通させ、甘いお芋の価値や産地のイメージアップを図るもの。
- ・ 副 賞 : 成田空港活用協議会主催セミナー (会員向け) での事業紹介
- ・ その他 : 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため表彰式 (会場開催) は中止となった。
- ・ 選考方法 : ①成田空港を活用したビジネスの発展性、②実現可能性、③地域経済活性化効果、④新規性などの基準に照らし、事務局にて候補者をリストアップ。当該候補者について、幹事会 (採点者) による採点を経て最終決定した。

[総 括]

- 成田空港周辺は、サツマイモの県内有数の産地であり、空港周辺地域の広域的な特産品開発・特色 (魅力) づくりに期待できる。また、空港での商品販売と空港からの「食の体験観光」につなげることや、食品加工・飲食・観光事業に対する新商品開発や付加価値向上等の波及効果も期待できる。
- 受賞者には、会員向けセミナーにて講演頂き、受賞プランについて広く周知を図る。また、会員とのマッチング調整など必要に応じた支援を行う。
- 一方、CHIBAビジコンの趣旨が、千葉県の課題解決につながるビジネスプランを広く募集するものであり、昨年度から実施しているが、当協議会の活動目的と合致するプラン自体が多くなかったため、次年度以降の協賛については、検討を要する。

【参 考】CHIBAビジコンについて

ちば起業家ビジネスプラン・コンペティション (CHIBAビジコン2020) とは

県内のニーズに対応した新たな発想・新たな手法による千葉発の起業を積極的に応援するためビジネスプラン・コンペティションを実施。県内での起業を前提とした内容で、千葉県の課題解決につながるビジネスアイデア・ビジネスプランを広く募集して選考【応募期間2020年7月20日～10月31日】。表彰・支援することで、経済の活性化を目指すものです。最終プレゼンテーションで◆千葉県知事賞 (ちば起業家大賞1名/ちば起業家優秀賞2名) が決定します。また、アイデアや熱い想いを評価する『ちばビジコンサポーター賞』の発表・表彰を行います。*コンペの具体的内容は、新型コロナウイルス感染症の状態を踏まえて検討し、改めて発表します。

■ 千葉県知事賞 (ちば起業家賞)

新規性・創造性のあるビジネスプランから、ちば起業家大賞1名、ちば起業家優秀賞2名を選出します。ちば起業家大賞受賞者には、先輩経営者による個別相談会で事業への助言・支援があります。

■ ちばビジコンサポーター賞

あなたの独創的なアイデアや千葉の課題解決に賭ける熱い想いを評価し選出します。受賞者には各サポーター企業より、起業支援につながる商品・サービスが与えられます。

【ちばビジコンサポーター賞一覧】

アクティビティ(体験型)商品開発

アクティビティ(体験型)の公募とモニターツアーの実施により、コンセプト設定とマーケティング戦略を構築し、新たな商品展開を目指す。

本年度においては、昨年度モニターツアーを実施した会員に加え、新たに事業参加会員も選定し、感染症予防対策を講じたうえでモニターツアーを実施し、ツアー結果を踏まえた商品の磨き上げ等を行った。



[展開]

アクティビティ商品の開発にあたって外国人の視点を取り入れることを目的とし、モニターツアーを実施した。ツアー終了後、参加したモニターからツアーへの評価や感想をヒアリングし、商品ごとに改善点、価格の妥当性、ターゲット客層等のフィードバックを受け、商品化に向けた磨き上げを進めた。

モニターツアーの実施状況については以下の通り。

● 芝山町 (みどりと空のプロジェクト)

- ・ 実施日:令和2年11月25日
- ・ 行程:芝山仁王尊、芝山古墳・はにわ博物館、陶芸体験

● いすみ市 (ツーリズムいすみ)

- ・ 実施日:令和3年3月4日 ※オンラインにて開催
- ・ 行程:国吉神社・出雲大社、光福寺、ほかいすみ市内サイクリング

[協力会員]

芝山町、いすみ市、横芝光町、千葉市

[総括]

- 今年度は、当初8回程度のモニターツアーを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、実際には2回の実施となった。コロナ禍で先が見通せない状況ではあるが、うち1回のモニターツアーについてはオンラインにて開催するなど、臨機応変に対応した。
- コロナ禍でインバウンドの需要環境が激変したことから、事業参加会員のなかには商品開発の方針を変更したり、ツアーのターゲットの変更を検討する事業者も出てきている。次年度も先行きが見通せない状況が続くと考えられることから、事業参加会員の意思を確認し、商品造成が可能と考えられる事業に絞り込み、商品化に向けた磨き上げを行なっていくこととした。

航空／空港関連企業との商談会

航空／空港関連企業と会員企業を含む県内食品事業者とのビジネスマッチングを行うことで、成田空港を起点とした新しいビジネス(取引)の実現を図り、県経済の活性化につなげる。

第3回目となる今回は、食品の卸売・小売業・機内食等を展開するバイヤーと県内食品事業者との個別商談会を開催し、取引機運醸成を図った。



個別商談の様子①



個別商談の様子②



展示の様子①



展示の様子②

[展 開]

● おいしい千葉と空港の商談会2021春

- ・日 時 : 令和3年3月9日(火) 10時00分～16時00分
- ・場 所 : ホテル日航成田(成田市取香500)
- ・参加者 : バイヤー 19社(22部門)
サプライヤー 51社(県内に事業所・生産拠点をもつ企業等)
- ・開催方式: 事前マッチング型個別商談会
(感染予防対策のため展示商談会は実施せず。)
- ・対象品目: 「千葉ならではの」という特徴をPRできる商品

- ・一昨年7月以来の開催となる今回は、「おいしい千葉と空の商談会2021春」と題して、日本航空㈱や全日本空輸㈱関係先企業を中心に19社（22部門、過去最大）のバイヤーに参加頂いた。また、サプライヤー側も、これまでの参加者を中心に51社に参加頂くことができた。
- ・開催に当たっては、参加者の安全・安心を第一に考え、展示商談や試飲・試食を行わず「3密対策」に取り組むなど新型コロナの感染防止措置を講じた。
 なお、開催方式は、事前マッチング型個別商談とし、1コマ20分で午前4コマ、午後6コマを実施した。
- ・展示商談は行わなかったものの、商品の展示スペースを設け、PRの機会を提供した。
- ・これまでより商談件数を増やすことを目指し、商談に精通した専門家（(一社)千葉県中小企業診断士協会）のもと、バイヤーへのニーズ調査、商談先の提案などマッチング調整に力を入れた。その結果、合計194件の商談（各バイヤー平均7商談）を実施することができた。
- ・商談スキルの向上等を目的とした事前説明会を開催し、ノウハウの提供や成約に向けた助言を行った。その他、FCPシートの作成支援や相談体制の構築など、専門家（1名につき15社程度担当）による個別フォローを充実させた。
- ・商談会後も、成約に向けた後押しや商談時の反省（今後に向けた整理）等を促すため、専門家による個別フォローを実施した。

[アンケート結果]

<商談の成果>

- サプライヤー合計＝51社（うちアンケート回収48社）
 商談数合計＝194件（うちアンケート回収183件）
- ・具体的な商談成約をした＝15件
- ・継続商談中＝139件
- ・継続的な商談の可能性は低い＝22件
- ・未（無効）回答＝7件

<アンケートの主な意見>

（サプライヤー）

- ・通常では接することができない企業と名刺交換できた事はメリットとして大きい。コロナが終息した時に芽が出るよう、今は種まきの時と考えている。
- ・本日の名刺が先々の商いにつながるようにしたい。
- ・商談後に御見積を出して商談したいと思う。
- ・これまでは何度か商談会に出展したが、今までの中で一番良い商談ができたと思う。
- ・空港事業がコロナの影響を受けているとお聞きしたが、先を見据えた商品の提案や開発ができたと感じた。
- ・自社の課題が分かる良い機会だった。

- ・20分という商談の時間は少し短いと感じた。
- ・カタログへの商品依頼をお願いされた。
- ・アジア向け商品についてのアドバイスをいただいた。
- ・ベンダーを介して取り扱いに向けて進めたい。
- ・全体的によい商談会でありました。今後の商談連絡等によって制約に結び付く可能性が大きい。
- ・台湾への輸出の可能性を検討してもらえるとのこと。

(バイヤー)

- ・実際にお取り組み可能な商品は少なかったものの、はじめて目にする商品があり面白かった。
- ・コロナ禍商品展示会等が少ない中、この様な商談会があり、良い情報が得られたと思う。
- ・千葉の名物や価格競争力があると感じた。
- ・オリジナル商品の展開が可能であればお願いしたい。
- ・JAS 認証取得の調味料は魅力。
- ・特徴的な商品だったので通販および展示販売での展開を検討したい。
- ・国内ギフト向け、海外輸出向けに見積りを依頼させていただいた。
- ・衛生面がしっかりしていることが分かり良かった。
- ・サンプルを工場に送っていただくこととした。

[協力会員]

日本航空（株）、全日本空輸（株）、成田商工会議所、（株）千葉銀行、（株）千葉興業銀行、（株）京葉銀行

[総括]

- アンケートでは、「継続的な商談を行いたい」という意見も多く聞かれ、通常であればなかなか接点を持つことができない両者を繋げることができ、これまで課題とされてきたバイヤー数の確保についても、一定の成果をあげられたと考える。
- 専門家の個別フォローを通じて、サプライヤーへの支援を丁寧に行った結果、一定のレベルが担保され、バイヤー・サプライヤー双方から好意的に受け止めて頂くことができた。
- コロナ収束後に向けた話し合いも交わされており、航空業界の回復に伴い更なる成約にも期待が持てる。
- 新型コロナ感染予防対策のため、オンライン商談の希望も聞かれた。会場開催とオンライン開催には、それぞれのメリット・デメリットがあるため、参加者の意見等踏まえ、検討していく必要があると感じた。

訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト

ベジタリアンやヴィーガン等に対応した多様な食事が、県内各地で提供される環境を整備し、誰もが「ちばの食」を楽しめる「おもてなし」を創出することを目的として、県内の飲食店、食品事業者への支援を行う。これにより、「食」におけるちばのブランド力向上や誘客につなげ、また、県内事業者の新たなビジネスの創出を目指す。

昨年度に引き続き、食の制限に対応するためのノウハウの取得、事業化に向けた支援及び、知名度向上のためのPR活動を行った。

【展開】

1 ベジアイコンの普及促進

昨年度にベジタリアン・ヴィーガン対応製品をわかりやすく表示するため、新たに『ベジアイコン』を作成したが、今年度は、適合製品を有する食品製造事業者に無償で提供するなど、アイコンの普及促進を図った。

※ 登録状況：10事業者（44商品）
（※令和3年2月末現在）



2 販売拠点の整備(計3か所)

ベジタリアンフレンドリーの県産品等を展開するため、協力店舗が販売するに当たり、VMD（ビジュアル・マーチャンダイジング）専門家を派遣する等支援を行った。

【支援先】

- (1) 道の駅多古あじさい館（香取郡多古町多古）（令和2年7月～）
 - ・ベジタリアンフレンドリー対応商品の展示・販売
 - ・レストラン「キッチンTAKO」でのベジタリアン定食メニューの提供



道の駅での展開は全国初



店舗での陳列の様子

(2) フレッシュマートおおくぼ（成田市吉岡）（令和2年7月～）

- ・ベジタリアンフレンドリー対応の地場産品の展示・販売



店舗での陳列の様子

(3) そごう千葉店地下1階（千葉市中央区新町）

（令和2年10月27日（火）～令和3年1月25日（月））

- ・ベジタリアンフレンドリー対応商品等の展示・販売
- ・株式会社みんなのごはん（本事業委託先）及び（一社）野菜がつくる未来のカタチ（フードロスの削減に取り組む事業者）による期間限定の共同出店。
- ・レストラン「キッチンTAKO」でのベジタリアン定食メニューの提供



店舗での陳列の様子①



PR TIMES でのプレスリリース

3 プロモーションの展開

メディアへの掲載やウェブサイト「Eat-together-」での広報等を通じて、プロジェクトの周知啓発に努めた。

(1) 道の駅多古あじさい館における『ヴィーガン定食』等の紹介

- ・PRのため、モデルでヴィーガンの未来リナさんによる、売り場見学やヴィーガン 定食の試食等を実施し、メディアからの取材に応じた。
- ・東京新聞（8月11日）、千葉日報（8月19日）に掲載。



売り場見学の様子



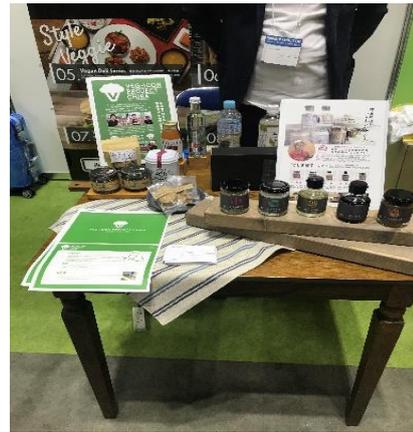
ヴィーガンメニュー試食の様子

(2) カフェレス・ジャパンへの出展（令和2年10月5日～7日）

- ・パシフィコ横浜（横浜市みなとみらい）で開催した『カフェレス・ジャパン（日本最大級のカフェ・レストラン専門展）』において、プロジェクトを紹介するためのブースを出展した。
- ・県内ショッピングモールと商談を行うなど、プロジェクトの周知や今後に向けた関係作りなど、一定の効果を得られた。



ブースの様子



展示の様子

[総括]

- 新型コロナウイルスの影響により、当初予定していたセミナー等が中止に追い込まれたものの、県内小売業者等への支援やプロモーション活動を積極的に行ったことにより、事業の認知度向上や今後に向けた関係構築など、一定の成果を得ることができた。
- 一方、活用協事業としては今年度で終了となるため、今後は、会員事業者が自主化を図る。

日本遺産等を活用した誘客促進

日本遺産等の地域資源を活用し、千葉県内の交流人口拡大と訪日外国人旅行者の増加に向けたツアー造成を企図しモニターツアー及び誘客プロモーションを行う。

本年度においては、香取市においてモニターツアーを、香取市および銚子市において誘客プロモーションを実施した。

[展開]

1 モニターツアー

《開催概要（香取市）》

- ・日時：令和2年11月29日（日）9時30分～16時45分
- ・内容： ※ ツアースポット間は徒歩及びタクシーで移動
- ・行程：JR佐原駅⇒東薫酒造⇒忠敬橋⇒さわら町屋館⇒伊能忠敬旧宅⇒橋橋⇒佐原商家町ホテル NIPPONIA・レストラン LEUN（昼食）⇒水郷佐原山車会館⇒観福寺⇒香取神宮⇒道の駅・水の郷さわら⇒JR佐原駅
- ・参加者：12名（うち外国人モニター7名）
- ・参加者アンケートによる評価
 - ・水郷のきれいな町並みとたくさんの歴史があり、ユニークな場所だった。
 - ・東京から日帰りで伝統的な日本の様子が見られて、すばらしかった。
 - ・自然と歴史を感じられてよかった。



【モニターツアーの様子】
酒蔵で試飲を楽しむ参加者



【モニターツアーの様子】
水郷の町並みを散策する参加者

2 誘客プロモーション

- ・概要：近畿日本ツーリスト首都圏が、パナソニックの映像コミュニティ「LUMIX CLUB PicMate」上に特設ページを開設。香取市・銚子市の写真に拍手・コメントをしてもらおうユーザー参加型企画を実施した。
- ・時期：令和2年9月10日（木）～12月25日（金）
- ・周知方法：パナソニックサイトでの案内、パナソニックニュースリリースなど
⇒大手媒体社（朝日、産経など）含む32社に情報が掲載された。
- ・実施方法：特設サイトにアクセスし、「香取市・銚子市」のアルバム内の写真に拍手をした方の中から抽選で賞品をプレゼントした。
- ・結果：応募総数 3,992 人・総PV数 45,160 件・総拍手数 33,840 件
- ・主な評価コメント
 - ・吸い込まれそうな夕景！（銚子市・犬吠埼灯台）
 - ・とても美しい趣ある作品で感激しました。（香取市・諏訪神社）

[協力会員]

(株)近畿日本ツーリスト首都圏、千葉県、香取市、佐倉市、銚子市、成田市

[総括]

- PRについては、SNSや映像を利用し北総四都市の魅力を伝える成功事例ができた。情報発信、企業との連携やバーチャルツアーの構築等、さらなるオンライン強化を行うことが肝要である。
- 次年度は、今年度の実績を踏まえ銚子地域（今年度未実施）でモニターツアーを実施し、事業の自走化を目指す。

地方創生と連動したDMO養成塾

地方創生に有効な取組としてDMOを核とした本来あるべき組織体制を理解し、持続可能な地域経営ノウハウを確立する講座を令和元年度から継続して実施した。

今年度はDMOの必要性を認識した会員及びその連携事業者などを主な塾生とし、ワークショップ形式により見識を深めるとともに、実際の課題を設定して地域として解決策を見出すことを目指した。また先進事例調査として、統括講師がアドバイザーとして深く関わった宮城県気仙沼市への先進事例調査も実施した。



【展開】

講座はテーマを設定し、臨時会議を含めて計6回開催した。統括講師は、内閣官房地域活性化伝道師、観光カリスマである山田桂一郎氏が務め、各回のテーマに沿ったゲスト講師にも講演いただいた。開催にあたっては感染症対策を講じて実施し、第4～6回講座は会場への来場による参加と併せて、オンラインによる配信も実施した。

先進事例調査では、山田氏がアドバイザーとしてDMOの構築に関わった宮城県気仙沼市を訪問し、官民連携して役割分担しながら地域経営の仕組みを構築した事例に触れ、マーケティングの仕組みを活かし地域の経営能力を高めることの重要性を学んだ。

■臨時会議

- ・日時 令和2年8月18日(火) 13:30～15:30
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 (株)ちばざん総合研究所 調査部担当部長 小松 孝之氏
成田空港活用協議会 事務局長 澁谷 博之
- ・内容 DMO等養成塾について
新型コロナウイルスによる地域経済への影響と対応状況

■第2回

- ・日時 令和2年9月10日(木) 13:30～16:00
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
観光庁 広域連携推進室長 檜垣 敏氏
- ・内容 多様な主体の参加、自主財源の確保と域内の経済循環の確立

■第3回

- ・日時 令和2年12月11日(金) 13:30～16:00
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
(株)インアウトバウンド仙台・松島 代表取締役 西谷 雷佐氏
- ・内容 観光資源の磨き上げと受入態勢 ～現状と課題・その解消～

■第4回

- ・日時 令和3年1月20日(水) 13:30～16:00
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
復興庁 復興五輪推進チーム 企画官 三重野 真代氏
京成電鉄(株) グループ戦略課長 林 祐悟氏
- ・内容 旅行者目線に立った二次交通等交通アクセスの整備

■第5回

- ・日時 令和3年2月9日(火) 13:30～16:00
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
観光庁 新コンテンツ開発推進室長 中谷 純之氏
- ・内容 専門人材の確保と人材育成によるコンテンツ開発

■第6回

- ・日時 令和3年3月26日(金) 13:30～16:00
- ・場所 かずさアカデミアホール
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
観光庁 観光地域振興部長 村田 茂樹氏
- ・内容 総括

■先進事例調査

- ・日時 令和2年10月25～27日
- ・視察先 宮城県気仙沼市
- ・講師 JTIC. SWISS 代表 山田 桂一郎氏
- ・内容 気仙沼におけるDMOの取り組みの紹介及び現地関係施設視察
- ・協力 (一社)気仙沼地域戦略、(一社)気仙沼観光コンベンション協会

[参加者等]

■講座 各回概ね30名程度

■先進事例調査 約20名

[総括]

- 多くの参加者が通年継続して講座を受講しており、講師に積極的に質問や意見交換する場面も見られ、DMOを活用した地域経営への関心の高さが感じられた。
- 参加者のなかには、年度中に観光庁から「登録DMO」として新たに登録された団体も2団体あり、本講座が機運醸成や知識取得の場となったと感じている。
- 次年度に当養成塾の報告書を作成し、会員や参加者に展開する予定。

日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客

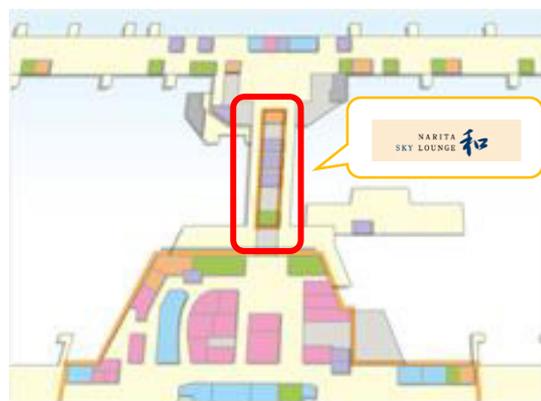
国立歴史民俗博物館が所蔵する「江戸図屏風」にNTT東日本などの技術を組み合わせ「光る江戸図」を制作し、成田国際空港で展示する。展示品を通して、近隣エリアへの誘客を促し、交流人口の拡大を目指す。

令和2年3月より「光る江戸図」の空港内展示を開始している。

[展 開]

1 展示概要

- ・ 展示期間 : 令和2年3月12日(木)～令和3年9月末までを予定
※成田国際空港株からの打診により展示期間を延長
- ・ 展示場所 : 成田国際空港 第2ターミナル
出国手続き後エリア
(「NARITA SKY LOUNGE 和」内)
- ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、
令和2年4月8日より閉鎖中



- ・ 江戸図屏風 : 江戸時代初めの江戸とその周辺を描いた屏風。江戸時代初期の
絵画資料は少なく、研究対象としても貴重な存在。



江戸図屏風 (左隻)



江戸図屏風 (右隻)

- ・解説用 ICT 機器 : キャラクター召喚装置である「Gatebox」とコミュニケーションロボットの「Sota」を設置。両機器とも、言語選択ボタンを押すことで、日本語、英語、中国語、韓国語の 4 つの言語で屏風の解説を聞くことが可能。「Gatebox」では、国立歴史民俗博物館 3D キャラクターの「もみちゃん」が解説する。



展示の様子

[協力会員]

国立歴史民俗博物館、佐倉市、(株)千葉銀行、成田国際空港、NTT 東日本

[総括]

- 「光る江戸図」及び解説用 ICT 機器の空港内展示を開始したが、新型コロナウイルス感染症の影響により現在、展示場所が閉鎖されている。
- 次年度以降、オリ・パラ開催を見据え空港内展示を継続するとともに、県内交流人口の拡大に資する活用方法を検討していく。

ユニバーサルツーリズムの促進

オリ・パラへの対応や高齢者比率のさらなる増加を見据え、ますます需要が高まっているユニバーサルツーリズム対応への機運を醸成する。

本年度は3年間の集大成として、ユニバーサルツーリズムの成長可能性を学ぶことを目的に、会員事業者等と連携し、①オンラインセミナー、②モニターツアー(オンライン)、③振り返りセミナーを実施した。

[展開]

1 オンラインセミナー

《開催概要》

- ・日 時：令和2年11月20日(金)～30日(月)
任意の日時でオンライン視聴(1時間)
- ・テーマ：ユニバーサルツーリズムの理解を、さらに深めるための講座
共生社会・超高齢化社会において、観光関連施設は、どこまでバリアフリー対応をしなければならないのか？
- ・講師：伴流高志氏
(株)近畿日本ツーリスト首都圏 ユニバーサルツーリズム推進担当)
- ・内容：
 - ・ユニバーサルツーリズムとは？
 - ・今後の成長可能性、発展可能性について
 - ・参加者：30名

2 モニターツアー(オンライン)

《開催概要》

- ・日 時：令和3年2月23日(火・祝) 16:30～18:00
- ・テーマ：手話でご案内する「エンジョイ館山ツアー」
(現地LIVE配信+名産品お土産付き)
- ・対象者：聴覚障害をお持ちの方
- ・代 金：3,500円
- ・内 容：
 - 行程：イントロダクション⇒館山ツアー(VTR)
⇒ウミホテル発光体験(LIVE配信)
- ・参加者：3名

・参加者アンケート

- 旅行先での筆談等のお願いは^{はばか}られることも多いが、オンラインツアーで見たお店の方の人柄は暖かく、受け入れてもらえそうだと感じ、実際に行ってみたいと思った。
- チャットを利用してコンダクターを始め、色々な方と話ができ楽しめたのは貴重な経験だった。
- 今度は友人とグループツアーとして参加したい。

3 事後フォロー勉強会

《開催概要》

- ・日 時：令和3年2月24日（水） 13：30～15：30
- ・場 所：渚の駅・たてやま 2階 会議室
- ・内 容：初めての試みとなったオンラインツアーを振り返りながら、ユニバーサルツーリズムの推進と継続実施に係る意見交換を行った。
- ・参加者：会場13名+オンライン視聴 ※オンラインと併用で実施



事後フォロー勉強会（オンラインと併用）

[協力会員]

（公社）千葉県観光物産協会、(株)近畿日本ツーリスト首都圏、館山市

[総括]

- オンラインセミナーおよび振り返りセミナーを通じて、ユニバーサルツーリズムの成長可能性を訴求し、会員のユニバーサル対応への機運醸成を図った。
- モニターツアー（オンライン）を通じて、地域の受入姿勢がわかって良かったという参加者の意見があった。単に観光スポットの魅力のみならず、地域の受け入れ姿勢についても積極的に発信することが肝要である。
- 今後については、会員企業による事業の自走化を図っていく。

(2) 空港利用促進事業

空港利用回復事業

新型コロナウイルスの影響によって、これまでになく航空需要が低迷しているなか、県内経済の回復のためには、いち早い空港利用者の回復が望まれる。航空便の利用及び移動先における新型コロナウイルスへの不安を軽減するため、本事業により試行的に利用者への「コロナ検査」に協力し、“安心して移動できる環境”を提供することで成田空国内線の利用回復の後押しを図った。

[展開]

成田空港で国内線を運航する航空会社が、“安心して移動できる環境”の創出を目的に航空券販売オプションであるコロナ検査を実施する場合に、航空会社及び成田国際空港(株)とともにその費用の一部を負担する事業を実施した。

事業期間は令和3年3月5日～31日。期間中に目的に合致するサービスを展開していたのはPeach Aviation(株)(以下:Peach)のみであったため、同社が運航する成田空港発の国内線全便を対象とし、フライト変更可能な料金プラン(バリューピーチ・フライトピーチ)を予約したうち、検査希望者に対し、無料で新型コロナウイルス郵送検査サポートオプションを提供した。

予約後の検査スキーム

- ① 対象航空券の購入者へ検査キットが送付される(搭乗10日前)
- ② 予約者が検郵送検査キットを返送(搭乗3日前まで)
- ③ 検査会社にて検査
- ④ 検査結果をメールにて予約者に報告(検体到着翌日)
 - ・陰性の場合:通常通り搭乗
 - ・陽性の場合:予約者及び調査会社から保健所へ結果連絡

予約者はフライトの変更

[協力会員]

Peach Aviation(株)、成田国際空港(株)

[総括]

- 予約者に対しPeachが行なったアンケートによると、利用目的を帰省とする回答が通常利用者の約2倍、また50代の申込が多い傾向にあるとのことだった。また本事業により、成田空港からの帰省を計画した人が最低5%増えたと同社は分析している。
- 対象期間、対象となる料金プランを限定して実施したが、新型コロナウイルスの影響により航空業界の需要が低迷するなか、Peachが航空券のオプションとしてコロナ検査を搭乗前に受検する制度を導入した意義は大きく、当協議会としても、本事業により微力ながら成田空港の利用回復の後押しできたと考えている。
- 今後も新型コロナウイルスの状況を注視しながら、成田空港の利用回復の後押しする事業を展開してまいりたい。

(3) 基本的な取組

首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望

成田空港に通じる首都圏中央連絡自動車道（圏央道）及び北千葉道路の一日も早い開通を推進するため、要望活動を実施した。

県内関係2団体とともに、財務省、国土交通省及び県選出の国会議員を訪れ、直接、要望書を届けた。



財務大臣への要望



国土交通省道路局長への要望

要望活動の様子

[展開]

- ・日 時 令和2年11月12日（木）13:00～
- ・参加団体 千葉県議会首都圏中央連絡自動車道推進議員連盟
首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議

《要望先》

- ・財務大臣、財務副大臣、財務大臣政務官、財務事務次官、主計局長 ほか7名
- ・国土交通大臣、国土交通副大臣、国土交通大臣政務官、国土交通事務次官、
道路局長 ほか31名
- ・県選出国會議員 29名

※内閣総理大臣、内閣官房長官、関東地方整備局、東日本高速道路株式会社及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構への要望については、別途実施。

《要望内容》

- 1 圏央道の一日も早い全線開通を図ること。
 - ・大栄・横芝間については、令和6年度の開通に向け、確実に事業を進めること。
 - ・県境・大栄間の4車線化についても、令和6年度までの供用に向け、確実に事業を進めること。

残る暫定2車線区間についても、早期に4車線化に着手し、一日も早く完成させること。特に、横芝・東金間については、既に事業許可されていることから、速やかに4車線化に着手すること。
 - ・(仮称)かずさインターチェンジの整備促進を図ること。
 - ・神崎パーキングエリア(仮称)については、令和6年度までの供用に向け、確実に整備を進めること。また、山武パーキングエリア(仮称)については、早期供用を図ること。
 - ・圏央道のストック効果をより高めるインターチェンジへのアクセス道路が確実に整備されるよう、予算の重点配分を行うこと。

- 1 北千葉道路の早期整備を図ること。
 - ・市川市から船橋市間は、国による令和3年度の新規事業化を図ること。
 - ・早期整備を図るため、市川市から船橋市間の専用部については、直轄事業と有料事業の合併施行とすること。
 - ・印西市から成田市間は、早期整備に向け十分な予算を確保するとともに、直轄施行区間については、引き続き4車線での整備を図ること。
 - ・国道464号の全線の直轄編入を図ること。

- 1 予防保全型メンテナンスを持続的に実施するために必要な予算と新たな財源を確保すること。

- 1 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策につづき、対象事業を拡大した5か年間の計画の策定及び必要な予算を確保すること。

- 1 長期安定的に道路整備・管理を進められるよう、新たな財源を創設するとともに、令和3年度道路関係予算は、所要額を満額確保すること。

また、地域経済の下支え効果が確実な公共事業を含む補正予算を早期に編成すること。

[総括]

- この2つの道路は、成田空港の利便性向上や成田空港の経済効果を千葉県全体、首都圏全体に波及させるために不可欠な基幹インフラであることから、今後も引き続き要望活動を続けていく。

会員提案の募集・具体化

協議会として、期間延長後の初年度となる平成30年度からは、より一層のプラットフォーム機能を発揮し、事務局・会員間の連携の強化、会員相互の連携・協働体制の構築・強化を図り、会員自身が主体となる事業の創出・自走化を促進するという事業展開方針を掲げている。

こうした事業展開方針から、協議会としての事業は原則、各会員からの提案に基づき実施するという枠組みのもと、以下のとおり、会員自身が主体となり協議会を通じて取り組みたい事業、他の会員との連携・協働により取り組みたい事業及びセミナー等について、各会員から提案や要望を募集し、事業化を検討・実施した。（なお、会員からの事業提案は随時募集している。）

[展開]

- ・募集期間：令和2年12月14日～令和3年1月8日まで
- ・募集内容：令和3年度の実施事業及びセミナー
- ・提案状況：① 会員からの事業提案（16件）
② セミナー等要望（6件）
③ 自由意見（8件）

《会員提案の検討・具体化》

令和2年度事業として、以下の会員提案を事業化し実施した。

- ・CHIBAビジコンとの連携による新規事業創出の促進
- ・アクティビティ（体験型）商品開発
- ・航空／空港関連企業との商談会
- ・訪日客等への「おもてなし」食プロジェクト
- ・日本遺産等を活用した誘客促進
- ・日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客
- ・ユニバーサルツーリズムの促進
- ・競技開催地とホストタウンや周辺地域が連携した情報発信・観光誘客等の促進
- ・空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組
- ・空港利用回復事業

[総括]

- 事務局による検討を行い、事業展開方針に合致する提案を協議会事業として位置づけ実施した。

(4) その他

プレスリリース

協議会の活動を広く広報するため、プレスリリースなどにより、メディアへの掲載を図った。

《プレスリリース実績》 4件

(令和2年)

10月23日 「Veg-Icon Project Chiba (ベジアイコンプロジェクトちば) × ちばベジラボ in そごう千葉店について」

(令和3年)

3月4日 「おいしい千葉と空の商談会 2021 春の開催について」

3月4日 「新型コロナウイルス郵送検査サポートオプションに協力します！」

3月22日 「～地方創生と連動したDMO等養成塾～ 第6回養成塾(最終回)の開催について」

《メディア等掲載実績》 4件

(令和2年)

4月1日 毎日新聞

8月11日 東京新聞

8月19日 千葉日報

(令和3年)

3月10日 ちばテレビ(WEB)